

JCAP設立記念講演

「低炭素社会・日本」をめざして
～ 市場メカニズムの活用による地域活性化～



平成20年7月16日

総評会館

国連環境計画・金融イニシアティブ 特別顧問
カーボン・オフセットフォーラム チーフアドバイザー

末吉竹二郎

低炭素社会の姿

地球の吸収力の範囲内に、CO₂の排出が抑制されている

新しい経済成長の下、より豊かな暮らしがある

地方と都会の、様々な交流がある

市民社会が生き生きとしている

低炭素化の推進

< CO2価格のプライスメカニズムへの組み込み >

CO2に貨幣的価値をつける

CO2排出をコスト化する

CO2削減にプライスをつける

社会の中での負担の仕組みづくり

CO2への価格付け

< 課題 >

誰が、貨幣的価値を付けるのか
- 商品の設計

誰が、貨幣的価値を受け入れるのか
- 売買の仕組みの設計

カーボン・オフセットが持つ可能性

CO₂の実効ある削減

Co-benefitsの実現

地方自治体の責任

市民の健康、生命、財産、経済、自然環境、
そして、子どもの将来を守る

- 米国の州や市

市民に最も近い行政が市民生活への責任が
重い

- EUの「補完の原則」

世界の都市の活動例

- 独・フライブルグのパーク＆ライド
- ロンドンの渋滞税
- パリのレンタル自転車
- ソウルの清溪川プロジェクト
- シアトル市が提唱した気候保護連盟

JCAPの役割

CO2排出の抑制

経済成長

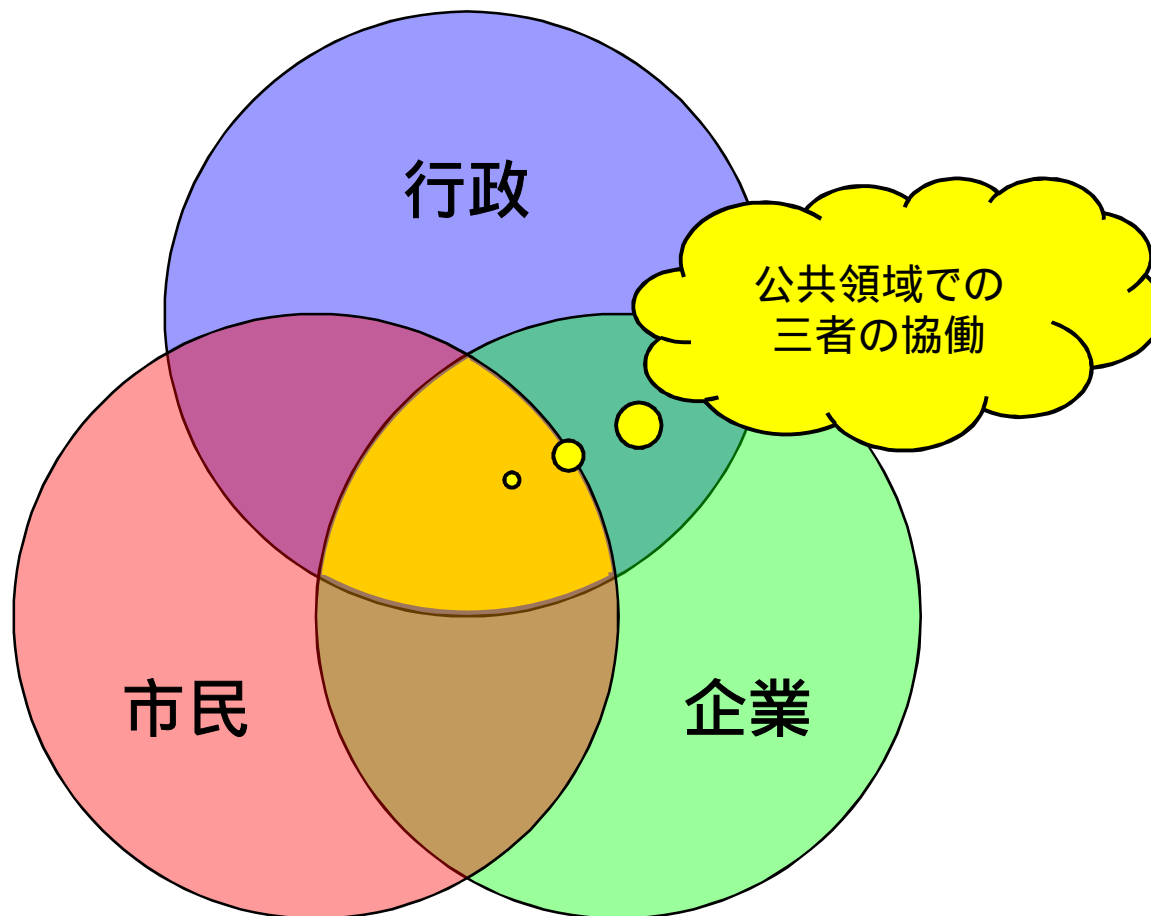
地方の問題

市民社会

社会が直面する問題の深刻化

- 問題の深刻さ、複雑さ
- 解決主体の不在
- 社会のアクターの多様化
- グローバリゼーションの負の遺産

3者の協働体制のすすめ



変革は、地域から

「温暖化対策のコスト」が地球を滅ぼすことはない

無策こそが地球を滅ぼすのだ


19世紀・米国先住民のことば

最後の木が死に、

最後の川が毒され、

最後の魚を採ったとき、

人はお金は、食べられないと気づくのだ



ご清聴ありがとうございました